

開館・実施状況は急遽変更となる可能性があります。当館 HP 等で最新情報をご確認ください

ポーランドの至宝
ショパン自筆譜
本邦初公開！

200年の肖像 ショパン



日本・ポーランド国交樹立100周年記念

2020 8/1 ▶▶▶ 9/22

静岡市美術館 

| JR静岡駅北口より徒歩3分 | 夜7時まで開館 | 毎週木・土曜日はトークフリーデー！ |

アリ・シェフェール《フリデリク・ショパンの肖像》(部分) 1847年 油彩・カンヴァス ドルトレヒト美術館 Dordrechts Museum
フリデリク・ショパン《エチュードへ長調 作品10-8、自筆譜(製版用)》(部分) 1833年以前 インク・紙 国立フリデリク・ショパン研究所附属フリデリク・ショパン博物館 Photo: The Fryderyk Chopin Institute

Portrayed in 200 Years of Images CHOPIN

静岡市美術館
SHIZUOKA CITY MUSEUM of ART

展覧会担当：伊藤・山本 広報担当：大庭・寺崎 info@shizubi.jp
〒420-0852 静岡市葵区紺屋町17-1 葵タワー3F
Aoi Tower 3F, 17-1, Koyamachi, Aoi-ku, Shizuoka, 420-0852 JAPAN
tel. 054-273-1515 (代表) fax. 054-273-1518 www.shizubi.jp

ポーランドの至宝 ショパン自筆譜 本邦初公開！

ポーランド出身の作曲家フリデリク・ショパン (1810-1849)。優美で繊細な曲調のピアノ曲を多く作曲したことから「ピアノの詩人」とも呼ばれ、そのメロディは、日本をはじめ今も世界中で愛されています。日本・ポーランド国交樹立100周年 (1919-2019) を記念して開催される本展では、ワルシャワの国立フリデリク・ショパン研究所の全面協力のもと、彼の音楽だけでなく、生前に制作されたショパンの肖像や、19世紀にワルシャワやパリで制作された絵画、現代の芸術家たちがショパンにインスピレーションを受けて制作した作品、そして日本におけるショパン受容を示す資料など国内外からの出品作約250点で、ショパンの人となりとその生きた時代を多角的にご紹介します。特に、ショパンの自筆譜や手紙はポーランド国外では見る機会の少ない貴重なもので、日本初公開も含まれます。

なお、本展は「2020 しずおか文化プロジェクト」の一環として、静岡音楽館 AOI、静岡科学館 る・く・るおよび市内生涯学習センターと連携し、ショパンをめぐる様々なプログラムを開催します。展覧会と合わせて是非お楽しみください。

※本展では、ショパンの洗礼名をポーランド語の綴りに則り「Fryderyk」とし、日本語カナ表記では原語の発音により近い「フリデリク」を用います。

開催要項

■開催期間：2020年8月1日(土) - 9月22日(火・祝) 全47日間

■休館日：毎週月曜日(ただし8月10日(月・祝)、9月21日(月・祝)は開館)※8月11日(火)は臨時閉館

■開館時間：10:00 - 19:00(展示室入場は閉館30分前まで)

■観覧料：一般1,200(1,000)円、大高生・70歳以上 800(600)円、中学生以下無料

* ()内は前売および20名以上の団体料金(団体は来館当日に限り購入可能) *障がい者手帳等をご持参の方および介助者原則1名は無料

■前売券：7月17日(金)から7月31日(金)まで以下の箇所にて販売

取扱場所※絵柄入り前売券および書店での販売はありません：静岡市美術館、ローソンチケット[Lコード：41569]、セブンチケット[セブンコード：084-040]、チケットぴあ[Pコード：685-247]

■主催等 (予定) 主催：静岡市、静岡市美術館 指定管理者(公財)静岡市文化振興財団、静岡朝日テレビ、日本経済新聞社
共催：国立フリデリク・ショパン研究所

後援：静岡市教育委員会、静岡県教育委員会、駐日ポーランド共和国大使館、日本ショパン協会

特別協力：ポーランド広報文化センター、ワルシャワ国立博物館、ドルトレヒト美術館

協力：LOT ポーランド航空、KLM オランダ航空、大阪音楽大学、講談社、

株式会社河合楽器製作所、株式会社ヤマハミュージックジャパン

企画協力：神戸新聞社、ROBINS



本展のポイント

「ポーランドの至宝」 ショパンの自筆譜 本邦初公開
多彩な作品・視点から ショパンの魅力に迫る
ショパンが生きた時代の美術作品も展示
静岡市内文化施設と連携、関連イベントを多数開催

ショパンの自筆譜は、所蔵するフリデリク・ショパン博物館でも実物が公開される機会が限られ、国外に貸し出されることは滅多にありません。本展では、日本初公開となる《エチュード》へ長調作品10-8の製版用自筆譜のほか、《ポロネーズ》へ短調作品71-3の贈呈用自筆譜など、ポーランドの誇る貴重な作品・資料の数々を展示します。

生前に友人・知人らが描いたショパンの肖像画や、自筆の手紙、愛用品など、ショパンを紹介する作品はもちろん、没後にポーランドを中心とした芸術家たちによって制作された、ショパンをモチーフとした様々な絵画やグラフィック作品も多数展示。さらに、日本におけるショパン受容や、ショパン国際ピアノコンクールについても資料やポスター、映像などをご紹介します。

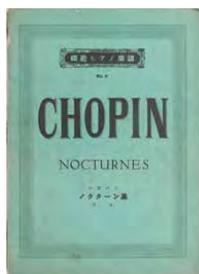
ショパンの生きた19世紀ポーランド、フランスで制作された絵画・版画も多数展示。幼少期の20年間を過ごしたワルシャワの風景を描いた作品や、パリで出会ったロマン主義画家アリ・シェフェールによるショパンの肖像(日本初公開)のほか、同時代に生きたアングル、ドラクロワなどの作品も出品されます。

本展にあわせ、「2020 しずおか文化プロジェクト」の一環として、静岡音楽館 AOI、静岡科学館 る・く・る、静岡市内生涯学習センターと連携し、各館の特徴を活かしたコンサートやワークショップなどが多数開催されます。静岡でショパンにひたることのできる、またとない機会です。

第1楽章

わたしたちの ショパン

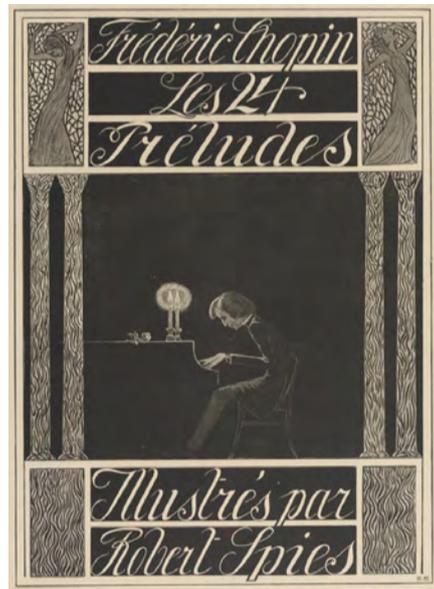
ショパンは現在に至るまで、音楽のみならず様々なジャンルの芸術家たちに影響を与えています。本章ではショパン没後に制作された肖像画や彫像、彼の音楽に着想を得た連作版画など多様な作品をご紹介します。また、明治以降の日本におけるショパン受容に関する資料も展示します。



【左】高折宮次編、好楽社
『模範ピアノ楽譜No.9 ショパン ノクターン集(夜曲)』
1944(昭和19)年 個人蔵
【右】ヘルマン・リヒテル著、道本清一郎訳、興風館
『小説 ショパン』
1943(昭和18)年 個人蔵



ヴァツワフ・シマノフスキ原作
エウゲニウシュ・ジャルコフスキ鑄造
《王立ワジェンキ公園のフリデリク・ショパン記念像胸部》
1968年 緑青・ブロンズ
国立フリデリク・ショパン研究所所属フリデリク・ショパン博物館
Photo: The Fryderyk Chopin Institute



ショパンの音楽から作者が受けた
イメージを版画化した作品集

ローベルト・シュピース《フリデリク・ショパン、24の前奏曲集:表紙》
1912年 連作版画集、コロタイプ・紙
国立フリデリク・ショパン研究所所属フリデリク・ショパン博物館
Photo: The Fryderyk Chopin Institute

第2楽章

ショパンを 育んだ都市 ワルシャワ

ショパンが幼少期を過ごした19世紀のワルシャワは、政治面では列国の影響下にあったものの、都市の近代化が進み、文化・芸術活動も盛んでした。本章では、当時の街の風景や、彼を取り巻いた人々たちを描いた絵画・版画で、若き日のショパンが活動したワルシャワに焦点をあてます。

当時のワルシャワの音楽界を牽引した。
ワルシャワ時代のショパンの師。



作者不詳《ヨゼフ・エルスネルの肖像》
19世紀前半頃 油彩・カンヴァス
国立フリデリク・ショパン研究所所属フリデリク・ショパン博物館
Photo: The Fryderyk Chopin Institute



宮殿は現在ショパン像が建つワジェンキ公園
として市民に親しまれている

マルチン・ザレスキ
《ワジェンキ宮殿—夏の風景》 1836-1838年
油彩・カンヴァス ワルシャワ国立博物館
©Muzeum Narodowe w Warszawie

マルチン・ザレスキ
《ワルシャワ、聖十字架教会の祭壇—主身廊からの眺め》
19世紀中頃 油彩・カンヴァス
ワルシャワ国立博物館
©Muzeum Narodowe w Warszawie



現在ショパンの心臓が安置されている
聖十字架教会

第3章

華開くパリのショパン

20歳でワルシャワを離れた後、ウィーンを経て向かったパリで、ショパンは演奏家としても作曲家としても充実期を迎えます。リストやドラクロワなどの芸術家たちとも交流し、中でもジョルジュ・サンドとの出会いは、彼の後半生に最も影響を与えました。サロンやオペラ座など当時の音楽文化を伝える版画や、同時代に描かれた絵画などで、ショパンの生きた時代のパリをご紹介します。

作者不詳《パリのパノラマ》 19世紀前半頃 リトグラフ・紙
国立フリデリク・ショパン研究所附属フリデリク・ショパン博物館
Photo: The Fryderyk Chopin Institute



オランダ出身のロマン主義の画家シェフェールのパリのアトリエには、ショパンをはじめ数多くの芸術家・文筆家たちが集った。

アリヨハネス・ランメ《アリ・シェフェール邸（パリ、シャプタル通り16番）の小さなアトリエ》 1850年 油彩・カンヴァス
ドルトレイト美術館 Dordrechts Museum

日本初公開!



アリ・シェフェール
《フリデリク・ショパンの肖像》
1847年 油彩・カンヴァス
ドルトレイト美術館
Dordrechts Museum

友人シェフェールによるショパンの肖像。
ショパンが亡くなる2年前に描かれた。
日本初公開の本作はシェフェール自身が保有していた。



ウジェーヌ・ルイ・ラミ
《ジョルジュ・サンド、アルフレッド・ド・ミュッセ、ウジェーヌ・ドラクロワがいるサロン（架空の場面）》
1835年頃 水彩、ウォッシュ、グアッシュ・紙
国立フリデリク・ショパン研究所附属フリデリク・ショパン博物館
Photo: The Fryderyk Chopin Institute



アリ・シェフェール原画、ルードルフ・ヴァイセ版画
《フランツ・リストの肖像》
1844年 リトグラフ・紙
国立フリデリク・ショパン研究所附属フリデリク・ショパン博物館
Photo: The Fryderyk Chopin Institute

作家ジョルジュ・サンドとの恋愛、
敬愛する友人・画家ドラクロワ、
同世代の音楽家フランツ・リスト、
パリでの交友を紹介

第4 楽章

— 楽譜、手紙 — 真実のショパン

本章では、ショパンの自筆譜や親しい人に宛てた手紙、身近にいた人たちが描いた肖像などを通して、歴史上の偉人としてではない、「人間としての」ショパンの姿に迫ります。特に自筆譜は公開される機会が限られ、国外に持ち出されることも少なく、まさに「ポーランドの至宝」と呼べるものです。中でも《エチュード へ長調 作品10-8、自筆譜（製版用）》は日本初公開となります。

※楽譜および手紙の展示ページは、実際の展示と異なる場合があります。

タデウシ・ウオビェンスキ
《フリデリク・ショパンの左手像
(1849年ジャン・バティスト・クレザンジェ作の鋳型による)》
1968年 プロンズ
国立フリデリク・ショパン研究所附属フリデリク・ショパン博物館
Photo: The Fryderyk Chopin Institute



日本
初公開!

エチュード へ長調 作品10-8 自筆譜（製版用）



フリデリク・ショパン《エチュード へ長調 作品10-8、自筆譜（製版用）》 1833年以前 インク・紙
国立フリデリク・ショパン研究所附属フリデリク・ショパン博物館 Photo: The Fryderyk Chopin Institute



ポロネーズ へ短調 71-3 贈呈用直筆譜

フリデリク・ショパン《ポロネーズ へ短調 作品71-3 直筆譜（贈呈用）》
1836年 インク・紙
国立フリデリク・ショパン研究所附属フリデリク・ショパン博物館
Photo: The Fryderyk Chopin Institute



マリア・ヴォジンスカ
《フリデリク・ショパンの肖像》
1836年 銅グラフ・紙
国立フリデリク・ショパン研究所附属フリデリク・ショパン博物館
Photo: The Fryderyk Chopin Institute

日本
初公開!

親友のピアニスト フォンタナ宛の手紙

フリデリク・ショパン
《自筆の手紙—パリのユリアン・フォンタナ宛ての手紙（ノアン、1839年10月8日）》
1839年 インク・紙
国立フリデリク・ショパン研究所附属フリデリク・ショパン博物館
Photo: The Fryderyk Chopin Institute



第5 楽章

ショパン 国際ピアノコンクール

ショパン国際ピアノコンクールは、現在まで続くものとしては最も古い音楽コンクールで、5年に1度開催されます。日本からも毎回多数の応募があり、入賞者もこれまでに11人を数えます。ポーランドを代表する作家たちによるポスターやメダル、映像などを通じて、世界中のメディアから注目を集め続ける本コンクールの魅力を探ります。



(表)



(裏)

ユゼフ・マルキューヴィチ《第10回ショパン国際ピアノコンクールのメダル(金メダル)》
1980年 金メッキ・ブロンズ
国立フリデリク・ショパン研究所附属フリデリク・ショパン博物館
Photo: The Fryderyk Chopin Institute



国立フリデリク・ショパン研究所

「国立フリデリク・ショパン研究所」(略称 NIFC、ニフツ) はワルシャワに拠点を置く世界最大のショパン・センターであり、ポーランドの国家機関のひとつ。ワルシャワとジェラゾヴァ・ヴォラの2か所にある「フリデリク・ショパン博物館」およびショパン資料においては世界最大の「ショパン図書館」も NIFC の一部門となっている。博物館所蔵のコレクションはおよそ7,500点にのぼり、その一部は1999年にユネスコの「世界の記憶」に登録された。

単一テーマによるピアノコンクールとして世界で最も歴史の古い「ショパン国際ピアノコンクール」(ワルシャワ市)の主催者でもある。



ワルシャワ国立博物館

ワルシャワ国立博物館は、ヨーロッパ美術コレクションの創設とポーランド人の啓蒙を目的とした教育改革の一環で1862年発足し、当初はワルシャワ大学構内の建物に拠点を構えて展示品を一般公開した。その後、幾多の変遷を経て1918年に「国立博物館」となる。

現在、博物館の所蔵品は83万点にのぼり、ポーランド芸術のコレクションだけでなく、「古代美術ギャラリー」、「中世美術ギャラリー」、「オールド・マスター・ギャラリー」、「19世紀美術ギャラリー」、「20および21世紀美術ギャラリー」、「ポーランド・デザイン・ギャラリー」などの展示室がある。創始者たちの意志を継いで、展示のほか研究・教育活動も推進している。

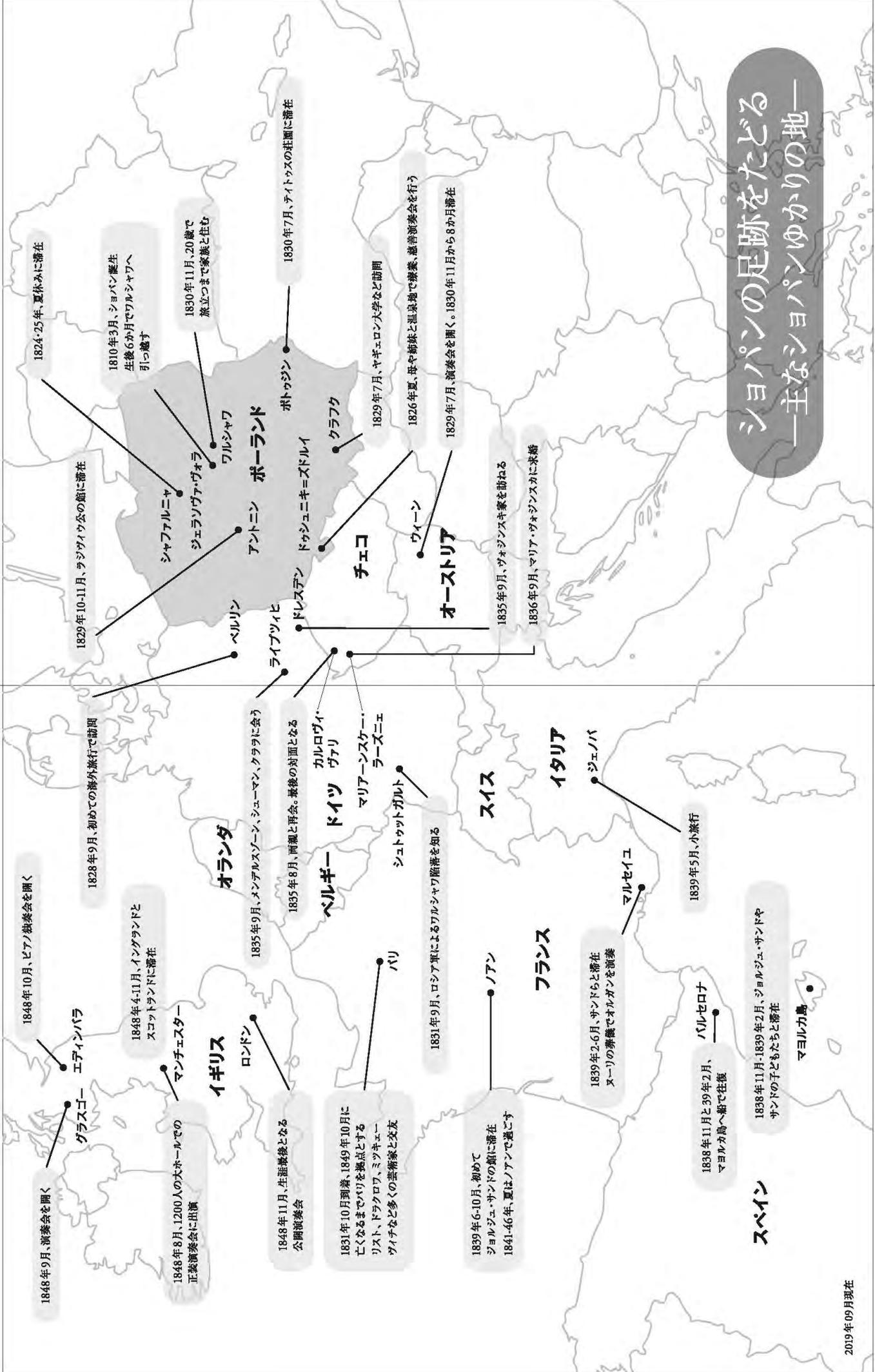


ドルトレヒト美術館 (オランダ)

【ドルトレヒトのシェフェール・コレクション】

ロマン主義の画家アリ・シェフェール(1795-1858)は、ドルトレヒトに生まれたが、パリで画家としてのキャリアを形成し、同地で当時のもっとも成功した画家となっている。彼の生地との結びつきは途切れることがなく、シェフェールは存命中にドルトレヒト美術館に様々な作品を寄贈し、そののちにはアトリエに残されたもの全体が美術館に引き継がれた。本展で日本初公開となる《フリデリク・ショパンの肖像》(1847年)もそのうちのひとつである。シェフェールの遺産は、「シェフェール賞」として、若手の芸術家のための2年ごとの賞として継承されている。

シヨパンの足跡をたどる —主なシヨパンゆかりの地—



1848年9月、演奏会を開く

グラスゴー

エディンバラ

1848年10月、ピアノ独奏会を開く

マンチェスター

1848年4-11月、イングランドとスコットランドに滞在

イギリス

ロンドン

1848年11月、生涯最後となる公開演奏会

1831年10月到着、1849年10月に亡くなるまでパリを拠点とするリスト、ドラクワロワ、ミツキエー、ヴィチなど多くの芸術家と交友

パリ

1831年9月、ロシア軍によるワルシャワ陥落を知る

ノアン

1839年6-10月、初めてシヨルジュ・サントの館に滞在
1841-46年、夏はノアンで過ごす

フランス

1839年2-6月、サントらと滞在
スーリーの葬儀でオルガンを演奏

マルセイユ

バルセロナ

1838年11月と39年2月、マヨルカ島へ船で往復

スペイン

1838年11月-1839年2月、シヨルジュ・サントやサントの子どもたちと滞在

マヨルカ島

1839年5月、小旅行

イタリア

ジェノバ

スイス

ベルギー

カルロヴィ・ヴァリ

マリアーンスケー・ラーズニエ

シュトゥットガルト

1835年9月、メンデルスゾーン、シューマン、クララに会う

1835年8月、両親と再会。最後の対面となる

オランダ

1828年9月、初めての海外旅行で訪問

1829年10-11月、ラジヴィウ公の館に滞在

アントニン

ドゥシュニキ=ズドルイ

ドレスデン

ライプツィヒ

ベルリン

ポーランド

ポトツェン

クラフク

ウィーン

チェコ

1829年7月、ヤギェロン大学など訪問

1826年夏、母や姉妹と温泉地で療養、避暑演奏会を行う

1829年7月、演奏会を開く。1830年11月から8か月滞在

オーストリア

1835年9月、ヴォジンスキ家を訪ねる

1836年9月、マリヤ・ヴォジンスカに求婚

1824-25年、夏休みに滞在

1810年3月、シヨパン誕生後6か月でワルシャワへ引越す

1830年11月、20歳で旅立つまで家族と住む

ワルシャワ

1830年7月、ティトウスの荘園に滞在

音声ガイド

本展の音声ガイドでは、テレビアニメ『ピアノの森』で主人公の母親役を演じる坂本真綾さんによるナレーションをお楽しみいただけます。



Collaboration『ピアノの森』

©一色まこと / 講談社

幅広い層から絶大な人気を集める漫画『ピアノの森』*は、困難な環境で育ったピアノの天才少年が、良き指導者や周りの人々に支えられ、ショパン・コンクールを目指すストーリー。作者一色まこと氏による貴重な原画などを通して、その奥深い魅力をご紹介します。

*1998年から2015年まで講談社の漫画雑誌に連載され、2018年と2019年にはTVアニメがNHKで放送されました。



●関連イベント

●講演会「ショパン——その生い立ちと人となり」

日時：8月29日(土) 14:00-15:30 (開場 13:30)

講師：関口時正氏 (翻訳家、東京外国語大学名誉教授)

会場：当館多目的室

参加料：無料

定員：50名(予定)

申込締切：8月13日(木) 必着 ※申込方法の詳細は当館ホームページをご覧ください。

2020しずおか文化プロジェクト 静岡・音楽館×科学館×美術館 共同事業 静岡・室内楽フェスティバル 2020

●ミュージアム・コンサート「ショパンの時代の楽器で聴く」

日時：9月13日(日) 15:00開演 (開場 14:30) 会場：当館多目的室

参加料：2,000円(全自由、チケット制)

定員：50名(予定) ※未就学児入場不可

※8月1日(土)より当館受付および静岡音楽館 AOI 受付にて販売。

※定員になり次第販売終了、お電話での予約はできません。

定員：100名 ※未就学児入場不可

出演：デンハーグ・ピアノ五重奏団<小川加恵(フォルテピアノ)、池田梨枝子、

秋葉美佳(ヴァイオリン)、中田美穂(ヴィオラ)、山本徹(チェロ)、角谷朋紀(コントラバス)>

曲目：F. ショパン：ポロネーズ第10番 へ短調 op.71-3

ノクターン第2番 変ホ長調 op.9-2 (ピアノ五重奏版)

ピアノ協奏曲第1番 ホ短調 op.11 (ピアノ六重奏版) ほか

主催：静岡市美術館 協力：静岡音楽館 AOI (TEL. 054-251-2200)



小川加恵



池田梨枝子



秋葉美佳



中田美穂



山本徹



角谷朋紀

©Shigeto Imura

体調のすぐれない場合はご来館をお控えください。

ご来館時は必ずマスクをご着用ください。

混雑時は展示室のご入場を制限させていただく場合があります。

ご来館の際は、最新の開館状況および注意事項を

当館HPまたはお電話にて必ずご確認ください。

2020しずおか文化プロジェクト 静岡・音楽館×科学館×美術館 共同事業

静岡でショパンにひたる

JR 静岡駅そばに位置する静岡音楽館 AOI、静岡科学館 くる・く・る、および静岡市内の生涯学習センターでは、本展にあわせ、各館の特徴を活かした「ピアノの詩人」ショパンの魅力に迫る多彩なイベントを開催します。

※申し込み方法やチケット販売等、各事業の詳細は、

2020 しずおか文化プロジェクトのホームページ

(<https://www.scpf.shizuoka-city.or.jp/2020>) をご覧ください。

*講演会「作曲家入門 F. ショパン」

日時：①6月19日(金) 19:00-20:30

②9月12日(土) 10:00-11:30

③9月16日(水) 19:00-20:30

会場：①静岡音楽館 AOI・講堂 (TEL.054-251-2200)

②薬科生涯学習センター (TEL.054-278-4141)

③奨生生涯学習センター (TEL.054-246-6191)

講師：関本淑乃 (静岡音楽館 AOI 学芸員)

参加料：無料(要申込)

*静岡音楽館 AOI コンサートシリーズ 2020-21

静岡・室内楽フェスティバル 2020

小菅優(ピアノ) & 石坂団十郎(チェロ)

デュオ・リサイタル ～ショパンの調べ～

日時：10月3日(土) 15:00 開演 (開場 14:00)

会場：静岡音楽館 AOI (TEL.054-251-2200)

曲目：F. ショパン：ピアノ・ソナタ第3番 ロ短調 op.58、

チェロ・ソナタ 短調 op.65 ほか

参加料：全指定 4,000円(静岡音楽館倶楽部会員 3,600円、22歳以下 1,000円)

*「ピアノ解体ショー

～ピアノの中ってどんな風になってるの?～」

グランドピアノの解体とショパン《ワルツ第6番〈小犬のワルツ〉変ニ長調 op.64-1》などを演奏をします。

日時：8月18日(火) 14:00-15:30

会場：静岡科学館 くる・く・る (TEL. 054-284-6960)

講師：宮澤晴奈((株)音楽舎 ピアノ調律師)、関本淑乃(静岡音楽館 AOI 学芸員)

参加料：無料(要申込・別途科学館入館料)

*静岡市生涯学習センター全館連携コンサート事業

「ショパン～生涯の旅～」

静岡にゆかりの11人のピアニストたちによる、オール・ショパン・コンサート。静岡市にある生涯学習センター全11館で実施します。

日程：

~~<前期>5月24日(日)～8月2日(日) 中止~~

<後期>8月9日(日)～11月21日(土)